

AIリハビリ支援ロボットの最新動向と 日台臨床実験の連携

莊詔仁 (Brian Chong)

緯創医学科技株式会社 副総経理

【要旨】

2026年までの今後5年間で、リハビリロボット市場の複合年間成長率は26%と推定されています。需要を促進する重要な要因には、人口の高齢化、脳卒中やその他の衰弱または障害をもたらす傷害の発生率の増加が含まれます。多くの人が複雑で長期的な医療リハビリテーションを必要とする怪我に苦しんでいるため、リハビリテーションに向かう患者を支援するロボットの開発は重要な対策の1つになっています。ロボットリハビリテーション療法は、高強度のトレーニングを実施できるため、脊髄疾患や脳卒中による運動障害のある患者さんに非常に役立ちます。また、高齢者の自立や介護者のサポートにも役立ちます。リハビリテーションロボットの研究が急増しており、優れた患者ケアとリハビリテーションの結果を提供するために、ますます多くの病院や診療所がリハビリテーションロボットを採用し始めています。日本は、開発・展開されたロボット製品の数で世界をリードしており、その使い方の先駆者でもあります。